

TAKAOKA SDGs GUIDE

高岡が変われば世界も変わる



令和3年12月

たかおかSDGsサポーター

はじめに

世界の様々な課題に対するSDGs(持続可能な開発目標)の考え方や取り組みは、わたしたちの地域が抱える課題にも無関係ではなく、地域課題の解決のヒントにもなります。

このガイドは、SDGsを地域の皆さんに身近に感じてもらい、一人ひとりが日々の生活の中でできる範囲でSDGsを実践してもらうために作成しました。

ご紹介する取り組みはあくまで一例であり、地域課題を解決するためにわたしたちができることを考え、取り組んでいくヒントとして提案しています。

暮らしやすく働きやすい、環境にやさしい持続可能な未来都市高岡の実現を目指し、みんなで一緒に取り組んでいきましょう。

＼ たかおかSDGsサポーター が、取り組みをサポートします ／

たかおかSDGsサポーターとは？

高岡で企業、団体、市民、行政等がそれぞれ主体となってSDGsに取り組みやすくなるための普及啓発の方向性を決める地域の経済団体、金融機関、行政による話し合いの場。

＜参加メンバー＞

高岡商工会議所、高岡商工会議所 青年部、高岡青年会議所、(株)北陸銀行、(株)富山銀行、(株)富山第一銀行、高岡信用金庫、東京海上日動火災保険(株)、高岡市



目次

SDGsとは	P.3
わたしたちが目指すまち	P.4
17の目標 紹介ページの見方	P.5
1 貧困をなくそう	P.6
2 飢餓をゼロに	P.7
3 すべての人に健康と福祉を	P.8
4 質の高い教育をみんなに	P.9
5 ジェンダー平等を実現しよう	P.10
6 安全な水とトイレを世界中に	P.11
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	P.12
8 働きがいも経済成長も	P.13
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	P.14
10 人や国の不平等をなくそう	P.15
11 住み続けられるまちづくりを	P.16
12 つくる責任 つかう責任	P.17
13 気候変動に具体的な対策を	P.18
14 海の豊かさを守ろう	P.19
15 陸の豊かさを守ろう	P.20
16 平和と公正をすべての人に	P.21
17 パートナリシップで目標を達成しよう	P.22
SDGsの考え方	P.23
企業がSDGsに取り組むヒント	P.24
もっとSDGs	P.25



SDGsとは？



2015年の国連総会で全会一致で採択された、2030年を期限とする世界の変革をテーマにした17の目標と169の具体的なターゲットのことです。

「誰一人取り残さない」世界を目指し、不平等や気候変動といった地球規模の課題に対し、先進国や途上国などの立場を超えて、世界中の人が「自分ごと」として捉え、協力して取り組んでいくことが大切です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



わたしたちが目指すまち



歳をとっても健康で
生き生きと暮らせる

それぞれの生活に合った
働き方ができる

魅力的な仕事に就き
長く働ける

自然が豊かで
暮らしに潤いがある

お互いを尊重し
理解し合い助け合う

安心して楽しく
子育てができる

個性を磨き生きる力を
高める教育を受けられる



少子高齢化、コミュニティの維持、食品ロス、後継者不足、ワークライフバランスなどの社会課題は市民・事業者・行政などが力を合わせて解決し、自分たちの暮らしたいまちは自分たちでつくっていかねばなりません。

かつて商人・職人のまちとして栄えていた高岡に、再び活気あふれるまちを取り戻すためには、このSDGsという羅針盤の下、多様な主体が時にはそれぞれの分野で、時には連携して取り組みを進めていく必要があります。

地方創生とは

まちの魅力が **しごと** をつくる。

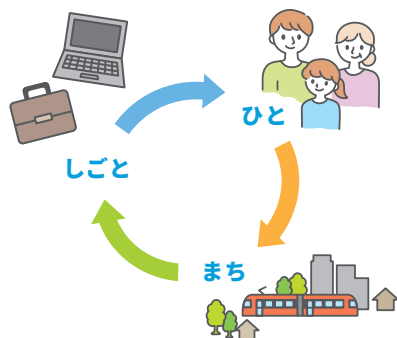
しごと があるから **ひと** がくる。

ひと がいるから **まち** が魅力的になる。

すべては繋がっている。

まち も **しごと** も **ひと** も起点になりうる。

同時に達成できる。



SDGsを通じて 地方創生を目指す = 地方創生SDGs

17の目標 紹介ページの見方

● 目指すまち

それぞれの分野で高岡が目指す
まちの姿を記載しています。

● 現状と課題

各目標の達成にあたって踏まえる
べき日本や高岡市の現状と解決す
べき課題を記載しています。

● キーワード

取り組みを進める上で、各目標に
関連するキーワードを紹介してい
ます。

● ターゲット

左に示したキーワードに関係する
各目標に設定されたターゲットを
アイコンと番号で示しています。

● 地方創生 SDGs

内閣府が全国の自治体の取り組み
を共通の尺度で評価するための
「地方創生 SDGs取組達成度評価
項目」を記載しています。



目標1

貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



目指すまち それぞれの環境に合った 柔軟な働き方ができる

現状と課題

「貧困」と聞くと、発展途上国の話と捉えがちですが、日本でも子どもの7人に1人（2018年時点）が相対的貧困状態にあり、その半分以上がひとり親世帯です。学歴、就職、収入などで格差が生まれやすく、次の世代にも影響を与える「貧困の連鎖」が深刻です。

高岡市の貧困率の基準となる本市の相対的最低所得線は増加傾向にあります。また、少人数世帯の増加や少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化などにより、社会課題が複雑化、不安定化しています。地域での助け合いや支え合いの機会が少なくなっているため、生活困窮者の早期発見、支援体制の構築が必要です。

キーワード

絶対的貧困

私たちが一般に「貧困」と聞いてイメージする食べ物や家がいないなど、人間として最低限の生存を維持できない状態のこと。

相対的貧困

世帯の所得が、その国の文化水準、生活水準と比較して、適正な水準での生活を営むことが困難な状態※のこと。
ファストファッションの普及、本人が意思表示しづらいことなどにより、わかりにくい現状がある。

※世帯所得が等価可処分所得の中央値の2分の1以下に満たない状態。

関連ターゲット/地方創生SDGs

1.1

生活保護等を受ける家庭の削減など、地方における絶対的・相対的な貧困を削減し、すべての人々の経済的安定を実現する



1.2

生活保護等を受ける子育て家庭の削減など、地方における男性、女性、子供の絶対的・相対的な貧困を削減し、すべての年齢の男性、女性、子供の経済的安定を実現する



▼ 具体的な取り組み例

● ひとり親家庭支援

医療費助成、学習支援ボランティア、自立支援教育訓練給付金など、働くことができないという問題の解決のための支援。

● カンガルー出動の推進

保育園から子どもを引き取った後、小学校の連休で、どうしても預けられる場所がないとき、近くで見ながら働くことができるような、子育て中の人も働き続けられる職場をつくる。

● 高岡オフィスパークなのはな保育園

オフィスパークの入居企業でつくる高岡オフィスパーク協議会が市内初の企業主導型保育所として2017年に開設。



ステップ1 世界・日本の「貧困」について調べてみよう！

ステップ2 子ども食堂など支援の輪に参加しよう！

● 具体的な取り組み例

企業・団体で実際に高岡で取り組まれている活動例を紹介しています。

● Let's Action!

個人の消費活動や地域の取り組みにおけるSDGsの行動のヒントを提示しています。

1 貧困をなくそう



目標1

貧困をなくそう

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



目指すまち それぞれの環境に合った 柔軟な働き方ができる

現状と課題

「貧困」と聞くと、発展途上国の話と捉えがちですが、日本でも子どもの7人に1人（2018年時点）が相対的貧困状態にあり、その半分以上がひとり親世帯です。学歴、就職、収入などで格差が生まれやすく、次の世代にも影響を与える「貧困の連鎖」が深刻です。

高岡市の貧困率の基準となる本市の相対的低所得線は増加傾向にあります。また、少人数世帯の増加や少子高齢化の進展、ライフスタイルの多様化などにより、社会課題が複雑化、不安定化しています。地域での助け合いや支え合いの機会が少なくなっているため、生活困窮者の早期発見、支援体制の構築が必要です。

キーワード

絶対的貧困

私たちが一般に「貧困」と聞いてイメージする食べ物や家がないなど、人間として最低限の生存を維持できない状態のこと。

相対的貧困

世帯の所得が、その国の文化水準、生活水準と比較して、適正な水準での生活を営むことが困難な状態※のこと。

ファストファッションの普及、本人が意思表示しづらいことなどにより、わかりにくい現状がある。

※世帯所得が等価可処分所得の中央値の2分の1以下に満たない状態。

関連ターゲット/地方創生SDGs

1.1 生活保護等を受ける家庭の削減など、地方における絶対的・相対的な貧困を削減し、すべての人々の経済的安定を実現する



1.2 生活保護等を受ける子育て家庭の削減など、地方における男性、女性、子供の絶対的・相対的な貧困を削減し、すべての年齢の男性、女性、子供の経済的安定を実現する



▼ 具体的な取り組み例

● ひとり親家庭支援

医療費助成、学習支援ボランティア、自立支援教育訓練給付金など、働くことができないという問題の解決のための支援。

● 高岡オフィスパークなのはな保育園

オフィスパークの入居企業でつくる高岡オフィスパーク協議会が市内初の企業主導型保育所として2017年に開設。

● カンガルー出勤の推進

保育園から子どもを引き取った後や、小学校の連休で、どうしても預ける場所がないとき、近くで見ながら働くことができるような、子育て中の人も働き続けられる職場をつくる。

Let's
Action!

ステップ1 世界・日本の「貧困」について調べてみよう！

ステップ2 子ども食堂など支援の輪に参加しよう！

2 飢餓を
ゼロに



目標2

飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する



目指すまち

農業が魅力的な仕事として選ばれ 永く働ける

現状と 課題

日本の国民の1割弱が飢餓を経験しており、日本の飢餓率は先進国の中では高い水準です。また、2018年度の日本の食料自給率はカロリーベースで37%と過去最低となりました。日本で食べられているものの6割は海外からの輸入に頼っているのが現状です。

高岡市においては、地域で生産したものを地域で消費することや、今後の地域の中心となる農業者の育成や経営の承継、後継者の確保など、農業が稼げる産業として農家の挑戦が求められています。

キーワード

食品ロス

本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう食べ物のこと。国内でも年間643万トン発生している(H28時点)

食料自給率

国民に供給される食料に対する国内生産の割合を示す指標。

関連ターゲット/地方創生SDGs

2.1 食育の推進等を通じた地域の高齢者、妊婦、未就学児童、幼児等の栄養改善、地域内での食料自給率向上、農業・林業・漁業の推進等を通じて地域の食料供給の安定性を高める



2.3 効率的かつ安定的な農業経営者の育成・確保、女性を含む若者の新規就農者確保に向け、大規模化、集落農業の導入、農業教育の充実化、競争力強化、ロボット技術などの先端技術の導入、6次産業化などによる地域の雇用確保などを通じて、農業生産性の向上を目指す



▼ 具体的な取り組み例

● 地産地消給食

高岡では、四季ごとに、豊かな水と大地の恩恵を受けた様々な農産物が作られ、生産者の高い技術とたっぷりの愛情を注がれて作られたその「高岡のめぐみ」を使った学校給食を提供している。

● フードドライブ

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動。

● 農業DX ※

次世代人材育成支援やスマート農業推進

※DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良く変革させるという概念のこと。

● 子ども食堂

民間が主体となる形で温かい食事を提供し、子どもの貧困や孤食をサポートする活動。

Let's
Action!

ステップ1 食べ残しをなくそう！

ステップ2 地産地消で地元の農家を応援しよう！

3 すべての人に
健康と福祉を



目標3

すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目指すまち 歳をとっても健康で 生き生きと楽しく暮らせる

現状と課題

日本では、自立した生活を送れる期間「健康寿命」が、平均寿命より男性は約9年、女性は約12年も短くなっています（不健康期間）。また、日本の高齢者（65歳以上）人口・生産年齢人口比率は生産年齢人口（15～64歳人口）のほぼ2人で1人の高齢者を支えることになると見込まれています。

高岡市の平均寿命、健康寿命は、男女とも延伸しています。平均寿命と健康寿命の差である日常生活動作に介護を必要とする期間（不健康期間）の長さは、ほぼ横ばいで推移しており、令和元年の不健康期間は男性が1.62年間、女性が3.81年間となっています。

キーワード

超高齢社会

65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占めている社会を指す。国全体の高齢化率は、先進国の方が高く、発展途上国の方が低くなる傾向がある。現在の日本は、世界に先駆け、超高齢社会に突入している。

健康寿命

自立した生活を送れる期間。平均寿命から寝たきりや認知症など介護が必要な状態の期間を差し引いた期間。

関連ターゲット/地方創生SDGs

3.4 4つの行動リスク要因（煙草・不健康な食生活・運動不足・過度の飲酒）を避け、生活習慣病の予防・改善を進める



3.b 精神的健康、身体的健康、社会的結束を強化するための地域レベルでの取り組みを強化し、社会一般の人々の健康を保持、増進させる

▼ 具体的な取り組み例

● 健康たかおか◎10か条

健康寿命を延ばす10の習慣を示した健康づくり市民行動目標を作成し、できることから始めようと啓発している。



例：「がん検診受診の促進」

がんは国民の2人に1人はかかる身近な病気。今や不治の病ではなく、早期発見、早期治療のため受診しましょう。

● 健康経営の推進

従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことで、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらす、業績向上や株価向上につながる。

● 健康増進セミナー

公民館など地域で講座やラジオ体操の開催し、生き生きとした市民活動の基盤をつくる。広いスペースを地域に開放し、ラジオ体操を実施している事業所もある。

Let's
Action!

ステップ1 生活習慣を見直そう!

ステップ2 職場で積極的に健康づくりに取り組もう!

4 質の高い教育を みんなに



目標4

質の高い教育をみんなに



全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目指すまち いくつになっても学べ 何事にも挑戦できる

現状と 課題

かつて、経済成長期での大量生産のため、すべての子供たちが同じレベルで同じ内容を学んでいた画一的教育の時代は終わり、不確実、不安定で複雑化していく、答えのないこれからの時代を切り拓く人材を育てる探究での学びに重きを置く教育スタイルに移っています。SDGsは子どもたちの興味・関心を地域や世界につなぐ灯台の光となり得、我々大人も将来世代とともに学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。令和2年度から順次改訂されている新学習指導要領でもSDGsの担い手を育成することが盛り込まれています。

高岡市では少子高齢化に対応するため、学校再編やGIGAスクール構想にもとづく教育の個別最適化を進めています。

キーワード

コミュニティスクール

学校の再編統合を進めるにあたり、子供たちの連続した成長を切れ目なく支援する高岡ならではの小中一貫教育を推進するため義務教育学校を開設している。

リカレント教育

学校を卒業して仕事に就いても学ぶことをやめず、仕事と交互に教育を受けていくことが望ましいという考えから、その時代に求められる知識やスキルをアップデートするために生涯を通じて学び続けていくこと。

関連ターゲット/地方創生SDGs

4.1 効果的な学習成果の実現を目指し、義務教育の質を向上させ、全ての子供たちの基礎学力を育成するための取り組みを推進する（遠隔教育の推進、IT・プログラミング教育の拡充等）



4.4 地域における創業支援・職業教育、訓練等の充実、地域での就業に向けた機会の提供、リカレント教育、インターンの機会拡大等を通じて、技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる



▼ 具体的な取り組み例

● ものづくりデザイン科

ふるさと学習（地域学習）やものづくり制作で学んだ高岡の歴史・文化に対する理解や体験をもとに、児童生徒が未来の高岡をデザインしたり、未来の高岡に対して自分たちができること等を考えたりする力を身に付けていく。



● 高岡熱中寺子屋

大人が「もういちど7歳の目で世界を…」というコンセプトに、生涯学習を通じて、「まちづくり＝人づくり」の考え方で地域の人材育成・異業種間交流・地域間交流・特産品開発などに取り組んでいる。



Let's
Action!

ステップ1 世界で起きていることに興味を持って調べてみよう！
ステップ2 SDGsを生活のものさしにしよう！

5 ジェンダー平等を 実現しよう



目標5

ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子の能力強化を行う



目指すまち 女性が生き生きと働き 安心して暮らせる

現状と 課題

各国の「経済参画」、「教育の到達度」、「健康」、「政治参画」の4つの分野で男女不平等の度合いを指数化し、総合して算出されるジェンダーギャップ指数。日本は156か国中120位（2021年時点）で、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となっています。

日本において議員や首長、組織における管理職など、リーダーに占める女性の割合は10%未満。ちなみに高岡市役所一般行政職の女性管理職は約2割。社会の意思決定はまだ男性中心になっています。

キーワード

男性の家事・育児

日本の家事・育児時間の男女格差が深刻です。育児や介護、家事などは妻の方が主に担っているという家庭が多いことがうかがえる。共働き世帯で男女差なんと5倍！（総務省「社会生活基本調査」より）また、日本人男性の労働時間は世界一の長さであり、「家事のできなさ」は家庭だけの問題ではない。

女性のエンパワーメント

企業がジェンダー平等と女性のエンパワーメントを経営の核に位置付けて自主的に取り組むことで、企業活動の活力と成長の促進を目指し、女性の経済的エンパワーメントを推進する国際的な原則として活用されることが期待されている。

関連ターゲット/地方創生SDGs

5.4 女性が活躍しやすい職場環境の整備、性別に関係なく働きがいのある環境の整備、共働き世帯における男女の家庭参加を促す働き方改革の推進、優しい職場環境の実現、在宅勤務等を含めた柔軟な働き方の実現に向けた取り組みを強化する



5.b 地方における女性起業家育成、事業支援、先端技術を活用した女性の就業支援、子育て後の再就職支援、雇用継続とワークライフバランスの確保等を通じて女性の能力強化を促進する



▼ 具体的な取り組み例

● 男女平等推進センター

男女平等・共同参画を推進する市民の活動を支援するとともに、男女平等・共同参画に関する施策を総合的に進めるための拠点施設。セミナーの開催やイベントブースの出展など、普及啓発を行っている。

● ベビーファースト運動

みなさんや企業・行政が妊婦さんや小さなお子さんを育てているお母さん・お父さんに感謝の気持ちを込め、安心して子供を産み、そして育みやすい社会を目指して、自分たちができることを宣言し、行動するための運動。



Let's
Action!

ステップ1 それぞれの家庭で家事分担について話し合おう！

ステップ2 育児や介護をしながらでも無理なく活躍できる職場をつくろう！

6 安全な水とトイレを世界中に



目標6

安全な水とトイレを世界中に

全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目指すまち 安全で豊かな水環境を 後世につないでいく

現状と課題

高岡市は、アルミ産業によって産業発展を遂げてきた歴史もあり、水の恩恵を多く受けています。市内を流れる小矢部川と庄川をはじめとする河川は富山県西部を流域圏とし、呉西エリアの経済、生活、環境に欠かせないものです。市域を超え、川上・川下をイメージした循環型生活・経済圏での活動が求められています。

キーワード

循環型流域経済圏

分水嶺から沿岸までの流域をひとつの圏域と捉え、そこにおいて環境と経済が両立する社会をつくるという考え方。森・里・川・海から得られる生態系サービスを適切に利用し、将来にわたって恵みを楽しみ続けるためには、その地域だけの視点で取り組むのではなく、生態系サービスの受け手となり、経済活動や生活している地域も含めた広域的な視点が必要。

関連ターゲット/地方創生SDGs

6.6 地方（特に自然観光が発達している地方）において山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う



▼ 具体的な取り組み例

● 高岡上下水道ビジョン

どのような環境にあっても、蛇口をひねれば水が出る、水を流せば下水道が処理してくれるという「あたりまえ」を未来に継続するため、基本理念に「市民とともに 未来へつなぐ 信頼の上下水道」を掲げ、「安全」「強靱」「持続」の3つの基本方針のもと、事業に取り組んでいる。



● バイオマス

化石燃料を除く木材や草木、家畜の排泄物、資源作物、食品廃棄物、下水汚泥など、動植物から生まれたエネルギー資源の総称。これらは燃やしても大気中のCO₂を増加しないとみなせる「カーボンニュートラル」と呼ばれる特性を持っている。

Let's
Action!

ステップ1 生活の中で節水を心がけよう！

ステップ2 雨水を貯めて庭木に水をやろう！

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



目標7

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



目指すまち 安全でクリーンなエネルギーを次世代につなぐ

現状と 課題

世界では、電気を使えない暮らしをしている人が12億人いて、先進国である日本の豊かな生活は石油、石炭、天然ガスといった有限な資源の恩恵を受け、築き上げられてきました。それら化石エネルギーは温室効果ガスを排出し、世界全体で危惧される気候変動に大きな影響を及ぼす。持続可能な地域の実現のため、あらゆる分野でのエネルギーの効率的な利用と、再生可能エネルギーへの転換が求められています。

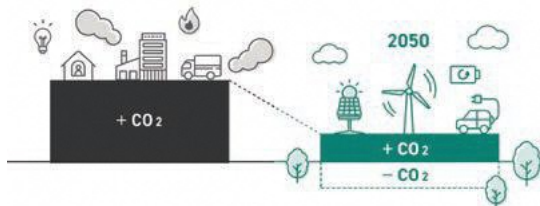
キーワード

再生可能エネルギー

水力、風力バイオマスや太陽光といった自然の力を利用したエネルギーのこと。日本の発電量に占める再生可能エネルギーの比率は約20%（2020年時点）で、世界平均（約24%）よりも低い。

カーボンニュートラル

石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うこと。方法には「減らす」、「ずらす」、「切り替える」の3つがある。



▼ 具体的な取り組み例

● 住宅用太陽光発電高度利用促進補助金

蓄電池やV2Hシステムがあれば、太陽光発電で発電した電力を蓄電池や電気自動車等（EV、PHEV）に蓄電することにより、平常時から電力を平準化し、有効利用できるほか、災害時や停電時に非常用電源として利用することができる。

● 市内一斉ライトダウン

地球温暖化防止の普及啓発に努めるため、施設の一斉消灯を実施。

Let's
Action!

ステップ1 こまめに節電を心がけよう！

ステップ2 再生可能エネルギーを取り入れてみよう！



目標8

働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



目指すまち オンとオフをはっきりと 充実した毎日過ごす

現状と
課題

戦後の高度経済成長はわたしたちに物の豊かさをもたらし、懸命に働くことが大切だと考えられてきました。しかし、物があふれ、経済が成熟していくとともに、その価値観も変わってきています。長時間労働が美德ではなくなり、働き方改革が進むにつれ、身体的、精神的、社会的に良好な状態を指す「ウェルビーイング※」が共感されるようになってきました。

※最近では「幸福」と同義とされ、ウェルビーイングにより生産性は1.3倍、創造力は3倍になるとも言われている。

キーワード

魅力ある仕事づくり

「稼ぐ力」を高め、従業員の賃金向上につなげるとともに、若者や女性にとって「やりがい」のある仕事づくりが大切。新事業展開、新分野進出への取り組みと併せて、円滑な事業承継、次世代技術、外国人材活用などを取り入れた地域・伝統産業の競争力強化、若者向けの雇用の創出を図ることが必要。

ワークライフバランス

多様な営業形態、複雑な社会情勢に対応するため、非正規労働が大幅に増え、正規社員の労働時間も高止まりしている。本来、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらしてくれる仕事で、暮らしを圧迫し、子育て・介護の両立で悩ませ、心身の疲労から健康被害をきたすものになっている。

関連ターゲット/地方創生SDGs

8.2 地域内での産業振興や産学官連携によるイノベーションの創出、高付加価値産業の育成、事業の転換支援等を促進し、地域内総生産の向上を実現する



8.5 ディーセントワークの実現、平等な就業機会の実現、正規採用の拡大、若者、女性、障がい者、高齢者、外国人の雇用促進等を通じ、地域に住む全ての人が働きがいのある労働に従事することを目指す



▼ 具体的な取り組み例

● ワーク・ライフ・バランス推進事業所の紹介

性別や年齢に関わらず、誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護など、地域、自己啓発等にかかる時間を確保し、健康で豊かな生活ができる職場づくりに積極的に取り組む事業所の認定を行っている。

結婚・出産後も、経験・スキルを活かし働き続けられるための短時間勤務や退職者の再雇用の導入。男女問わずの育児休暇の取得促進など、それぞれのライフスタイルに合った働き方が取り入れられている。

Let's
Action!

ステップ1 ワークライフバランスを意識して働こう！

ステップ2 充実した余暇を過ごし 仕事の生産性を高めよう！

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



目標9

産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱（レジリエント）なインフラ整備、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目指すまち 便利で快適な社会をつくるため 誰でもいろいろな技術を取り入れることができる

現状と課題

社会では今、激甚化する自然災害への対応やSociety5.0の実装、人類を脅かす感染症のパンデミックなど、これまでの概念や対処法では乗り越えられず、様々なシーンで「変革」が求められています。高岡市でも10年後、20年後のありたいまちの姿を地域で共有し、世界で活躍する人材、企業を生み出す基盤をつくっていく必要があります。

キーワード

後継者不足

事業承継の準備期間は、後継ぎの育成も含めると5年から10年必要であるといわれている。しかし、60歳以上の中小企業経営者のうち約半数が「これから準備をする」「現時点では準備をしていない」「現在は事業承継を考えていない」との結果だった(帝国データバンク「中小企業における事業承継に関するアンケート・ヒアリング調査」)。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

関連ターゲット/地方創生SDGs

9.2 産業セクターにおける地域の雇用機会を増加させるために、企業の本拠地移転、地域雇用機会の増大、地域インターンシップの推進等を行い、地方移住に伴う支援を積極的に行う



9.5 産学官連携を通じた地方の産業セクターにおけるイノベーション創出、科学技術振興を目的とし、研究開発従事者数及び官民研究開発の支出を拡大する



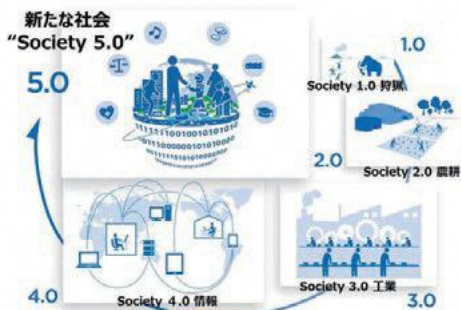
▼ 具体的な取り組み例

● 富山県事業承継・引継ぎ支援センター

新産業の育成・創出、企業経営の革新、アジア経済交流の推進等、活力ある地域経済の形成と富山県産業の躍進のために事業を展開している。

● DX推進

業務の効率化をはじめ、既存の事業に取り入れることで、新事業の展開など新たな付加価値を生み出す活動が加速している。



内閣府作成

Let's
Action!

ステップ1 身近な伝統産業に触れてみよう！

ステップ2 VRやドローンなど新しい技術を使ってみよう！



目標10

人や国の不平等をなくそう

各国内及び各国間の不平等を是正する



目指すまち 境遇にとらわれることなく 自分らしい生き方ができる

現状と
課題

世界では富裕層の1%が世界の富の半分以上を所有しているといわれ、貧困格差はますます二極化しています。また、日本でも多くの差別や格差が残っており、いやな思い、生きにくさを感じている多くの人がいます。誰ひとり取り残されない社会とはなにか？自分が「知らない」せいで誰かを傷つけることにつながっていないか？みんなが生きやすい社会、生き生きと誰もが活躍できる地域の実現を目指しましょう。

キーワード

ダイバーシティ

性別、年齢、国籍、人種、民族、宗教、社会的地位、障がいの有無、性的指向・性自認、価値観、生活スタイル等を互いに尊重し、認めあい、ともに活躍・成長することができる職場環境・風土づくりを進め、一人ひとりが、生き生きワクワク働きながら能力を最大限に発揮し、チームワークを発揮することが、社会にとって良い影響をもたらす。

LGBT

世の中には出生時に割り当てられてた性別と、こころの性が一致している人=シスジェンダー、自分とは異なる性別に惹かれる異性愛者が多数であるとされている。[シス ジェンダーかつ異性愛者]であることが「ふつう」なのか。だれもが自分らしく生きられる社会をつくるにはどうしたらよいのだろうか。

関連ターゲット/地方創生SDGs

10.2 バリアフリーな施設、交通機関の拡大等を含む老若男女問わず子供から大人まで全員が活躍できる社会の実現に向けた施策の実施を通じてすべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する



▼ 具体的な取り組み例

● 多文化こども勉強室

本市に住む外国籍の子どもたちの中には、日本語が不慣れなために、勉強に苦労している子がたくさんいる。そのため、日本人ボランティアの方々が外国にルーツをもつ子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりしている。

● LGBT対応住宅ローン

地方自治体が発行するパートナーシップを証明する書類を提出するか、銀行が用意する誓約書に署名することが条件。同性のパートナーが2人分の収入を合算して審査を受けられる「収入合算」が認められるようになった。

● アールブリュット

正規の芸術教育を受けていない人が独特の方法で衝動のままに表現する芸術のこと。障がいを持ったアーティストも多く、美術的な知識や常識に左右されないことが、見た人が経験したことのない創造性を生み出している。

Let's
Action!

ステップ1 障がいや性的少数者など、いろんな人の境遇を知ろう！
ステップ2 困っている人がいたら声をかけてみよう！



目標11

住み続けられるまちづくりを

包摂的かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目指すまち 災害に強く 助け合い 安心して暮らせる

現状と
課題

急速な人口減少による「空き家」問題や道路や橋といったインフラの老朽化、高齢化と車中心社会が生み出した公共交通・買い物難民などこれからも住み続けられるまちをつくっていく上での課題が山積しています。民間ができること、行政が行うことを共有し、ともに手を取り合い、解決策を実行していくことを通じて、どのようなまちが持続可能か、住みたいまちなのか今一度見つめ直す必要があります。

キーワード

空き家

人口減少により空き家が急増している。まちの流動性、リノベーションなどの魅力創出の面からは大切な資源になりうる。いかに活用していくかが課題である。

交通弱者

足に不都合がある高齢者や中山間地域に住む人、公共交通がない人にとって、買い物や通院などがしにくい環境は、生活上大きな問題となる。持続可能な生活を地域全体で考えていく必要がある。

関連ターゲット/地方創生SDGs

11.1 空き家問題の解決、安全で快適な住環境の実現、質の高い基礎インフラの実現、IT化等による公共サービスの拡大、賃貸しやすい住居の提供等を通じて全ての人々が安全に暮らせる環境を構築する



11.2 高齢者、女性、子供が利用しやすい公共交通機関の拡充、高齢者に配慮した経済的、肉体的に負担の少ない輸送システムの実現、事業者による革新的な輸送システムの研究開発、導入等、2030年までに持続可能な輸送システムへのアクセスを実現する



▼ 具体的な取り組み例

● たかおか暮らし支援事業

「まちなか区域」又は「居住誘導区域」において新築や中古住宅の取得に対して支援を実施している。

● 買い物サービス

応援団による地元のスーパーマーケットでの買い物代行と自宅までの配達や、軽トラックに約500品目の商品を積載し、対象地域内の個人宅まで訪問する移動スーパーなどが利用できる。

● 市民協働型交通システム

路線バスやタクシーなどの公共交通機関だけでは、十分な輸送サービスが確保できない地域において、国の制度を活用し、地域住民等が自主的・主体的に運行する交通網。

Let's
Action!

ステップ1 自分たちの暮らす地域の未来について話し合おう！

ステップ2 地域のお店を利用したり、地域の活動に積極的に参加しよう！



目標12

つくる責任 つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する

目指すまち

将来世代に共感を得られるような経済活動が根付いている



現状と課題

わたしたちはどの商品が持続可能な原材料調達や環境・社会的配慮につながるか、様々な国際認証ラベルを通じて知ることができます。そして、暮らしを支える農林水産業や繊維産業をはじめ、様々な分野にサステナブル&エシカルにつながるすることができます。

キーワード

食品ロス

日本では本来食べられる食料品が大量に廃棄されている。その年間643万トン(H28)にも及び食品ロスは国民一人ひとりが毎日お茶碗一杯分のごはんを捨てていることに相当する。

エシカル消費

消費者それぞれが社会的課題の解決を考慮し行動したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行ったりすること。主に環境に配慮したエコやリサイクルをはじめ、社会・人権に配慮したフェアトレード、地域経済に配慮した地産地消などがある。

関連ターゲット/地方創生SDGs

12.3 地域事業者による食品ロス削減に製品・サービス開発、生産・サプライチェーン全体での責任ある生産・消費に関する取り組み強化等を通じて食料廃棄を削減する



12.8 環境等を配慮した生活、生産活動の促進、2拠点生活の実現等地域を超えた人の頻繁な移動による新たな事業機会の創出等を通じて持続可能なライフスタイルを促進する



▼ 具体的な取り組み例

● 3010運動

日々の生活の中では、「買いすぎない」、「作りすぎない」、「残さず食べきる」ことが大切。

宴会や会合などにおいては、すぐに注ぎに回らず、開始30分と終わり10分は「食を楽しむ」。

● てまえどり

スーパーやコンビニなどで、消費期限が近い手前から商品を選ぶという働きかけを行っている。



FSC認証



GOTS認証



フェアトレード認証



レインフォレスト認証



RSPO認証



エコサート認証



MSC認証



asc認証

サステナブルラベルの一例

Let's
Action!

ステップ1 商品ラベルに注目し、地元産のものを手に取ろう！
ステップ2 買いすぎ・作りすぎを減らそう！



目標13

気候変動に具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

目指すまち

いつどこで起きるか分からない災害に地域で備え助け合える

現状と
課題

頻発する夏の猛暑、不安定な降雪による雪害など、気候変動による社会への影響を実感するシーンが増えてきました。経済発展のため急速な温暖化を引き起こすほどエネルギーを消費してきた先進国の一員として、喫緊の課題として捉え、化石燃料の使用を抑える緩和策、異常気象による災害を可能な限りおさえる対応策を並行して進める必要があります。

キーワード

ゲリラ豪雨・台風

近年、猛暑をはじめ、大雨や台風などの自然災害が全国的に激甚化しており、気候変動が原因とされている。わたしたちがこれからも暮らしていく地球を守るために、今すぐに対策を講じる必要がある。高岡でも近年、大雨による浸水被害や土砂災害に対する避難勧告の発令が続いている。

関連ターゲット/地方創生SDGs

13.1 地域内での防災、自然災害への連携、対応の強化、地域で気候変動や自然災害に対応するための施策の検討（事業者による新たな製品開発等）等を通じ、各地方公共団体レベルで気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応の能力強化に貢献する



▼ 具体的な取り組み例

● 自主防災組織の活動促進

災害による被害を最小限におさえ、拡大を防ぐには、日ごろからの住民の意識と災害時の自主的・組織的な出火防止、初期消火、避難等の防災活動が不可欠。

既存の防災組織との連携を図りつつ、隣保協同の精神に基づく自主防災組織結成の促進とその育成活動を行っている。



● BCP・タイムラインの作成

ヒト、モノ等利用できる「資源」に制約がある状況下において、優先的に実施すべきことを特定し、業務体制や対応手順、継続に必要な資源の確保等をあらかじめ定め、適切に執行することにより、生命、身体及び財産を守り、企業活動への影響を最小限とすることを目的とする。

Let's
Action!

ステップ1 ハザードマップで災害予測地点や避難場所を確認しよう！
ステップ2 マイタイムラインを作成しよう！

14 海の豊かさを 守ろう



目標14

海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目指すまち 身近で 美しい海を 子どもたちに 残していく



現状と 課題

島国である日本の生活にとって海は欠かすことができない存在ですが、人間の経済活動が海の汚染につながっています。原因のひとつは大量のごみや排水、もうひとつは持続不可能な漁業の仕方にあります。いずれも海という自然環境を破壊し、海の生き物を苦しめている。食物連鎖の過程でのマイクロプラスチックの蓄積や、世界的な魚需要の増加による水産資源の枯渇など、巡り巡って人間の生活にも悪い影響を及ぼします。

キーワード

海洋プラスチックごみ

陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量について、日本は年間6万トンで世界で30番目に多い。官民が連携してさらに取り組みを進めていく必要ある。2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過すると予測されている（世界経済フォーラムの報告書（2016年））

水産資源の枯渇

日本の魚食量は減少傾向にあるものの、世界での魚需要は拡大し続け、乱獲の影響もあり、水産資源は危機的状況にある。

関連ターゲット/地方創生SDGs

14.1 海洋ごみや海水の富栄養化、海洋汚染に関する情報発信を通じた啓蒙活動及び行動を検討し、海洋汚染を防止、削減に貢献することで、漁業の持続性を維持する



14.4 適切な漁獲計画の作成、水産資源の維持、回復の促進、漁業慣行の見直し、効率的な漁獲方法導入等を通じた漁業の持続的発展へ貢献する



▼ 具体的な取り組み例

● プラゼロ運動

高岡市では「焼却から再生利用」をテーマに、分別の徹底により、燃やせるごみとして捨てられているプラスチックごみの「ゼロ」を目指し、リサイクル率の向上を通じて、ゴミの減量化を推進している。

● 100%リサイクルPETボトル

リサイクルPET樹脂を100%使用したPETボトルを導入。1本あたり約60%、日本全体では年間約3万5,000トンのCO₂排出量を削減できる見込み。石油由来原料から作られる新たなプラスチック量を約3万トン削減できる。

● みんなできれいにせんまいけ大作戦2021

海岸漂着物の多くが生活系ごみなどに起因するものであり、河川を通じて発生していることから、上流・下流の住民が一体となった発生抑制対策を推進するため、市町村等と連携して県民総参加の清掃キャンペーンを展開。

Let's
Action!

ステップ1 サステナブル・シーフードを選ぼう！

ステップ2 海岸清掃に参加しよう！

15 陸の豊かさも 守ろう



目標15

陸の豊かさも守ろう

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目指すまち 四季の豊かさを感じ 暮らしに潤いを与える



現状と 課題

現在、世界で年間4万種が絶滅している第6の大量絶滅期にあるといわれている。人間活動による影響が主要因で、地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約100～1,000倍にも達し、たくさんの生きものが危機に瀕しています。

● 日本の生物多様性の4つの危機

- (1) 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- (2) 里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下
- (3) 外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱
- (4) 地球環境（夏の猛暑化など）の変化による危機（環境省HPより）

キーワード

森林と林業

森林は、地球温暖化防止や生物多様性の保全など、様々な働きを通じて国民生活の安定や経済の発展に寄与している。例えば、樹木の根は土砂や岩石などをおさえ、崩れるのを防いでおり、森林によって育まれた土壌は水質の浄化などに役立っている。将来にわたって森林が有する様々な機能を発揮していくためには、「伐（き）って、使って、植える」という形での循環利用をしていかなくてはならない。そのためには、林業の成長産業化の実現や森林の適切な整備・保全が極めて重要である。

生物多様性

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、様々な環境に適応するため進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれてきた。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接もしくは間接的に支えあって生きている。生物多様性とは、そういった生きもののたちの豊かな個性とつながりのこと。私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わりあう生態系からの恵み（生態系サービス）によって支えられている。

▼ 具体的な取り組み例

● ソーラービオトープ設置

幼児が自然環境の大切さを学ぶ場として、太陽光発電を利用して水生生物等を育成する「ソーラービオトープ」を設置する保育所。

● 森林教室

社有林として開設された森林で、環境教室など、森の公益的機能を体感できる。

関連ターゲット/地方創生SDGs

15.2

植林等の森林保護に関する取り組み促進、森林減少に資する技術、製品等の開発、地域レベルでの持続可能な森林管理手法の検討等を通じ、森林減少を阻止し、劣化した森林の回復、新規植林及び再植林を増加させるとともに、それにかかわる農業・林業等を支援する



15.4

山地生態系の能力を強化するため、ビオトープ整備等、生物多様性を含む山地生態系の保全に繋がる施策を実施する



Let's
Action!

ステップ1

四季の豊かさを感じる生活をしよう！

ステップ2

様々な場面で植物を植えて育ててみよう！

16 平和と公正を すべての人に



目標16

平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目指すまち 暴力や犯罪被害をなくすため 官民連携で取り組んでいる



現状と 課題

いろいろな人の権利を守ることが求められる社会で児童虐待が増えている現状があります。2015年から、選挙権が「18歳以上」に引き下げられましたが、若年層の投票率はいずれの選挙でも低い水準にとどまっています。

若い世代の意見を政治に反映していくために、「こんな政策が欲しい」「こんな社会にしていきたい」といった自分自身の考えを持ち、自分たちの声を届けることが重要です。一方で、このような社会を実現していくための情報発信も重要であり、透明性のある行政もつくっていく必要があります。

キーワード

主権者教育

国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくこと。

児童虐待

保護者がその監護する児童（18歳未満）に行うもので、殴る、蹴るなどの身体的虐待や、性的虐待だけでなく、心理的虐待やネグレクトも含まれる。

関連ターゲット/地方創生SDGs

16.7 意思決定において、地域に住む人々の参加を促し、より内包的かつ地域住民の意見をより反映させた意思決定を実現する



▼ 具体的な取り組み例

● T-voice

高岡の若者の声を将来へ反映したいという想いを込めて結成された、高岡市選挙啓発サポーター。高岡市内に在住・在学、お勤めの高校生以上の若者がアイデアを出し合い、様々な選挙啓発活動に取り組んでいる。

● センキョ割

投票後、撮った写真がクーポンの代わりとなり、参加店でオトクが楽しめる。



Let's
Action!

ステップ1 投票へ行こう！

ステップ2 高岡市のまちづくりを調べて、話し合ってみよう！



目標17

パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



目指すまち 様々な立場の人々が手を取り合い 地域の課題に取り組んでいる

現状と
課題

地域では、住民同士がつながることで、自治会（町内会）をはじめ、老人会や婦人会、子ども会、地域づくり団体など様々な活動を行っています。

特に自治会（町内会）は、地域コミュニティの中心的な存在として、関係団体と協力しながら、地域の防災や防犯、環境美化や地域の見守りなど様々な活動を支えています。

急速に進む少子化やライフスタイルの変化、若者の流出などにより地域のつながりは弱まってきており、伝統文化の担い手の確保、子育てや地域における教育、防犯、防災といった「共助」の光景が失われつつあります。地域の産業や文化の広がり、暮らしを支える地域自身が、それぞれに合ったこれからのコミュニティのあり方を模索していくことが求められます。

キーワード

ステークホルダー

産・学・官・金・労・言・土といったそれぞれの分野で活躍する主体のこと。SDGsはそれぞれが同じ目標を共有し連携することで、複雑な課題を解決できるイノベーションが生まれることを期待している。

関連ターゲット/地方創生SDGs

17.17 地方公共団体、地域金融機関、市民等の全てのステークホルダー間でのパートナーシップの実現、地方公共団体でのSDGsに関する認知度向上、SDGs目標達成に向けた地域の取り組み促進を通じて効果的なパートナーシップを奨励・推進する



▼ 具体的な取り組み例

● たかおかSDGsパートナー制度

高岡をよくしたいと願う企業・団体が自社のSDGsの取り組みを発信・見える化し、多様なステークホルダーの参画・連携を促進。稼げるまちづくりを実現し、地域の上立の好循環を構築する。

● 共創ビジネス研究所

地域課題を地元中小企業のビジネスにつなげることで、民間活力による住民サービスの向上と地元中小企業の活性化を図ることを目的に、主に富山大学と連携したゼミ形式の講座を運営する。



Let's
Action!

- ステップ1 いろんな場に参加し、いろんな人と「対話」しよう！
ステップ2 地域の課題を、みんなで解決する方法を考えてみよう！

SDGs の考え方

● 社会・経済・環境の三側面を統合的に

下図のイメージでは土台には4つのゴールが示す環境・生物多様性の側面が位置し、二段目には、8つのゴールが示す社会的側面が続きます。最上段には4つのゴールが示す経済的側面が位置しています。

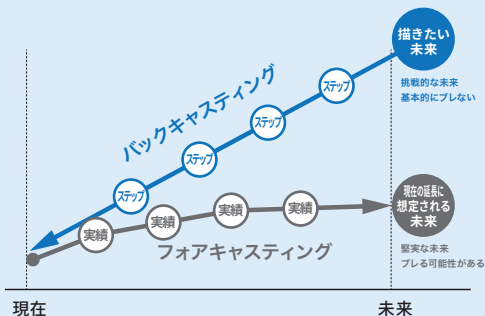
この三段の階層を「17. パートナリーシップ」が上下に貫いており、経済と社会を発展させるには経済を支える社会とそのベースとなる充実した環境が不可欠で、この三側面を統合的に満たすためには幅広い分野をつなぐ「パートナーシップ」が必要であることを示しています。



出典：ストックホルムレジリエンスセンター

● バックカスティング

現状からの積み上げ、延長線上にある「できること」を考えるフォアカスティングではなく、目指すべき姿を描き、そこから逆算して「どうすればできるか」を考えるのがバックカスティングです。



CHECK

「SDGsウォッシュ」

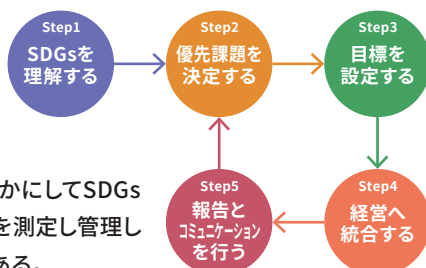
実際にはSDGsに取り組んでいないのにも関わらず取り組んでいるように見せかけたり、ひとつのゴールに寄与していても別のゴール達成を阻害（トレードオフ）している状態をいいます。

企業がSDGsに取り組むヒント

SDG Compass

企業が事業にSDGsがもたらす影響を解説し、SDGsを企業戦略の中心に据えるためのツール。

SDG Compassの目的は、企業が、いかにしてSDGsを経営戦略と整合させ、SDGsへの貢献を測定し管理していくかに関し、指針を提供することにある。



01. SDGsを理解する

企業がSDGsに関し十分に理解する。

02. 優先課題を決定する

SDGsによってもたらされる最も重要な事業機会を捉え、リスクを減らすために、そのバリューチェーン全体を通して、SDGsに関する現在および将来の正および負の影響を評価し、それぞれの優先的に取り組む課題を決定する。

03. 目標を設定する

企業全体を通じ、優先的事項の共有を促進し、パフォーマンスを改善する。その目標をSDGsと整合させることによって、リーダーは持続可能な開発に対する明確なコミットメントを示すことができる。

04. 経営へ統合する

共有された目的を追求し、組織的な課題に取り組むためには、バリューチェーン全体を通じて、そのセクター、あるいは、政府や市民社会団体とのパートナーシップにより協働していく必要がある。

05. 報告とコミュニケーションを行う

企業は、共通の指標や共有された優先課題を活用して、持続可能な開発に関するパフォーマンスを報告することができる。SDG Compassは、企業が、SDGsに関する事項を、ステークホルダーとの意見交換や報告に導入していくことを推進する。

『SDGsの企業行動指針—SDGsを企業はどう活用するか—』より引用

スタートアップツール

JCI 高岡青年会議所
TAKAGAKA

誰もが気軽に、SDGsの概念や高岡市の現状を知り、取り組み上でのメリット、課題解決事例、実際の企業の取り組み、年間支援事業や金融窓口など、企業のSDGsの取り組みを包括的に支援するツール



// もっとSDGs //

楽しく学べるカードゲームを紹介します！



特定非営利活動法人イシュープラスデザイン/
株式会社プロジェクトデザイン



金沢工業大学SDGs推進センター



これら以外にもSDGsを体感できる
ゲーム型ワークショップは、自治会・
企業・学校・企業内での社員研修など、
組織内外を問わず広く利用されて
います。

🔍 SDGsをもっと調べてみよう！

SDGs
情報関連サイト



国際連合広報センター



2030アジェンダ

国連開発計画



持続可能な開発目標(SDGs)

ユニセフ



持続可能な開発目標(SDGs)

環境省



持続可能な開発目標(SDGs)の推進

外務省



JAPAN SDGs Action Platform

高岡市



SDGsの推進

たかおかSDGsパートナー にご参加ください！

これらの取り組みをさらに推し進め、高岡の地で自律的好循環を構築するため、経済団体、金融機関、行政が中心となり、「たかおかSDGsパートナー」制度を立ち上げました。

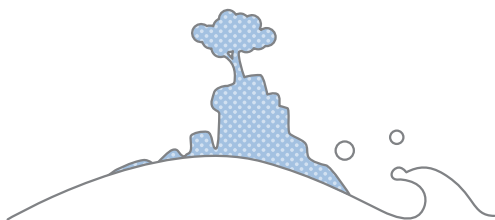
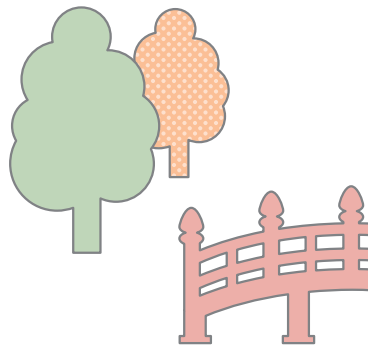
これは、地域で活躍する企業・団体のSDGsの取り組みを見える化し、地域課題解決に向けて連携を推進するためのものです。

高岡をよくしたい、一緒に持続可能なまちづくりをしたいという企業・団体の皆さま！市HP等でSDGsの取り組みが発信できます！「たかおかSDGsパートナー」へのご参加を心よりお待ちしております！！

事務局 / 高岡市、高岡商工会議所、東京海上日動火災保険
経営サポーター / 北陸銀行、富山銀行、富山第一銀行、
高岡信用金庫、高岡青年会議所、
高岡商工会議所 青年部

たかおかSDGsパートナーについて ▶





● お問合せ

高岡商工会議所 総務部 総務課

TEL.0766-23-5001 E-mail:soumu@ccis-toyama.or.jp

高岡市役所 市長政策部 都市経営課

TEL.0766-20-1226 E-mail:keiei@city.takaoka.lg.jp